
3 子育て支援の課題

(1) 児童虐待未然防止の観点からの子育て支援

前述のように、奈良県では、母親の心理的・精神的な不安・負担感が増大しており、この要因としては、下記の点が考えられます。

- ① 親になるまでの間に小さな子どもとの接触経験が減少していることなど、子育ての準備のないまま親になってしまい、子どもの育て方がわからないこと
- ② 母親は夫婦で子育てしたいが、夫の仕事からの帰宅が遅いなどにより、協力を得にくいこと
- ③ 母親の近所での話し相手が減少しているなど、地域の住民同士でのつながりが希薄化しており、身近なところで悩みを相談しにくいこと

育児不安・負担感を抱えている親が周囲からのサポートを得られない場合、虐待へのリスクが高まるという観点から、さまざまな子育て支援策を通じて、親を支援することが必要です。

特に、児童虐待未然防止のためには、地域における子育て支援の従事者が支援を必要とする親子を把握し、寄り添い、孤立させないよう支援したり、必要な支援に適切につなぐことが求められます。

(2) 多種多様な子育て支援ニーズへの対応

子育て支援を受ける側の親子については、深刻な育児ストレスを抱えている親や親族・地域から孤立し児童虐待に至る可能性のある親から、親子が気軽に集まれる場所で誰かと子育てについて情報交換できれば十分という親までニーズは多種多様です。

このようなさまざまな親子にとって必要な支援を提供し、「親が地域で自立して子育てができる力を身につける」ことが子どもの育ちにとって重要です。

(3) 地域子育て支援拠点を中心とする子育て支援の充実

地域子育て支援拠点事業は、身近な場での子育て中の親子の交流や子育て相談・情報提供、子育て支援に関する講習等を実施する取組であり、育児不安・負担感の軽減に大きな役割を果たすとともにさまざまな親子のニーズに対応する支援を提供しています。

奈良県内の多くの市町村において、地域子育て支援拠点（以下、「拠点」）が設置されていますが、設置箇所数を増やしたり、未設置の市町村をなくすという量的な拡充とともに、取組の充実及び従事者の資質の向上が課題となっています。

このため、奈良県では、奈良県内の拠点の量的及び質的拡充を目指して、平成24年度に拠点従事者や市町村の拠点事業担当者による「地域子育て支援拠点ネットワーク会議」を設置しました。

平成24年度は、会議構成メンバーを対象にモデル拠点見学会を開催、また、会議構成メンバーによる3つのワーキングチームが、①拠点運営マニュアルの作成、②乳幼児期の両親を対象とする子育て支援プログラムの作成、③祖父母を対象とする子育て支援プログラムの作成にそれぞれ取り組みました。

(4) 今後の地域子育て支援の充実に向けて

地域における子育て支援の更なる充実のためには、運営マニュアルや子育て支援プログラムを普及し拠点における取組を拡充していくとともに、市町村の子育て支援ボランティアや民間の子育て支援者など、担い手の裾野を広げていくことが必要です。

このため、大学やNPO法人等との連携により子育てボランティアを養成し、学生から子育て経験者・祖父母世代まで幅広い住民参加を得ながら、地域で子育てを支える活動の促進に取り組んでいきます。